

# 戦後政党史

## 福岡政行

1945年

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	保守党	社会党	共産党
1			
3	30. 大日本政治会結成		
8	15. 終戦、鈴木内閣総辞職。 17. 東久邇内閣成立。		
9	2. ミズーリ艦上で降伏文書に調印。 5. 第88回帝国議会「承認決議」採択。 14. 大日本政治会解散。	22. 安倍磯雄らの呼びかけによる単一社会主義政党結成準備会開催。	
10	4. GHQ、治安維持法廃止、政治犯釈放を指令。 5. 東久邇内閣総辞職。 9. 幣原内閣成立。	15. 日本社会党結成準備全体会議(党名、綱領発表)	10. 徳田球一ら政治犯、占領軍命令により釈放。 20. 「アカハタ」再刊。
11	26. 第89回帝国議会(臨時)召集。	9. 日本自由党結成、総裁鳩山一郎氏。 16. 日本進歩党結成。	6. 人民戦線綱領発表。 8. 第1回全国協議会をひらき行動綱領を発表する。
12	17. 衆議院議員選挙法改正公布、(婦人参政権、大選挙区制限速記選挙権半令20才) 18. 第89回帝国議会衆議院解散。	18. 日本協同党(委員長山本実彦)結成。	1. 第4回党大会開く、書記長徳田球一。 6. 社会党に共闘を申し入れて拒否される。年末へかけて、全国の労働者闘争・人民闘争を支援し推進する。

戦後政党史 (福岡政行)

	一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	1. 天皇人間宣言。 17. 日本労働組合同盟結成大会。			12. 中国から、野坂参三帰国、“愛される共産党”を訴える。 14. 日本共産党中央委員会と野坂は連名で「民主主義統一戦線」の結成を訴える。 14. 山川均、人民戦線結成を提案。
2	1. 第1次農地改革。 28. 公職追放令公布施行。			24~26. 第5回党大会。 27. 第1回拡大中委で政治局・書記局の制度を新設し、両局員を定める。
3				1. 山川ら、民主人民連盟結成準備会結成。 第1回世話人会で、この運動を「民主人民戦線」と呼ぶことを決定。石橋湛山、野坂参三、森戸辰男ら連名。
4	10. 第22回総選挙(自由141、進歩93、社会92)。 22. 幣原内閣総辞職。			10. 戦後第1回の総選挙に5名当選する。
5	16. 第90回帝国議会(臨時)召集。 19. 食糧メーデー事件。 22. 第一次吉田内閣成立。	4. 自由党総裁鳩山一郎公職追放。 14. 吉田茂、自由党総裁に就任。 24. 協同民主党(委員長山本実彦)結党。		
6				
7				
8		18. 自由党大会、吉田首相を総裁に推薦。		
9		25. 国民党(笹森順造ら)結党。	28. 社会党第2回大会(〜30)委員長片山、書記長西尾末広、会計細野三千雄。	人民戦線構想、幻と消える。
10	12. 第90回帝国議会閉院式。 28. 日本労働組合会議結成。			
11	3. 日本国憲法公布。 25. 第91回帝国議会(臨時)召集。			
12	26. 第91回帝国議会閉院式。 27. 第92回帝国議会(通常)召集。			

	一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	31. GHQ、ゼネスト中止命令。			5. 第4回拡大中委で政治的ゼネストの決行を決議する。以後2・1ゼネストを指導し、人民政府の樹立を予定する。
2	1. 2・1ゼネスト中止。		20. 平野力三氏ら日本農民党結成。	31. 2・1ゼネスト禁止され、労働戦線に敗北主義拉がる。この後、産別の自己批判問題をめぐり徳田らと組合グループの対立深まる。
3	31. 旧憲法下最後の議会解散(第92回帝国議会衆議院)。	31. 民主党結成大会。(最高顧問、幣原喜重郎)。 8. 国民協同党(書記長三木武夫)結成。		
4	5. 初の統一地方選挙。 20. 第1回参院選挙(社会47、自由38、民主28、共産4) 25. 第23回衆議院選挙。社会党第一党となる。		25. 総選挙で第1党(社会143、自由131、民主121、国民協同29、共4)(片山哲で初の社会党政権)	
5	30. 日本国憲法施行。 20. 第1回国会(特別)召集。第1次吉田内閣総辞職。 24. 内閣総理大臣片山哲の親任式挙行。		15. 社会党左派が共産党に絶縁声明	18. 第5回拡大中委に野坂より革命路線の草案を提出する。「平和革命を、「革命の平和的發展の可能性」と改める。
6	1. 国務大臣の認証式挙行(社会、民主、国協3党連立内閣成立)。	2. 民主党幹事長竹田儀一就任。 21. 自由党新役員決定。 30. 国民協同党第2回全国大会。	21. 社会党中執委、新役員決定。	6月～10月「アカハタ」「前衛」で志賀、神山論争が展開される。
7		3. 自由党、炭鉱国管反対声明発表	14. 社会党特別委員会、炭鉱国管案大綱決定。	
9	25. 社・民・自・国協四党代表打合せ、政党法四党共同案決定。			
10	21. 国家公務員法公布。		23. 社会党政調会危機突破対策に関して政府と懇談。	
11	4. 片山首相、平野農相を罷免。	29. 幣原民主党名誉総裁ら炭鉱国管案に反対して離党、民主クラブを結成。		
12	9. 第1回国会閉会。 10. 第2回国会(通常)召集。		13. 社会党左派、4党協定破壊などを要求して党内野党声明。	17. 産別事務局党員と党中央との対立激化。 21～23. 第6回大会、野坂による占領下の過渡期革命と平和的發展の方式を確認する。中西の社会主義革命論は退けられる。行動綱領にポツダム宣言実施・完全な独立要求のストロークンを入れる。徳田＝伊藤系の指導部への進出顕著となる。党員10万名以上。

戦後政党史 (福岡政行)

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	19. 幣原・吉田会談で四党協定破棄に伴う政局及び保守新党問題打ち合わせ。 23. 民主党、残留党内反幹部派20数名太陽会結成。 29. 国協党、政局不安解消のため社民両党に対し首脳部会談申し入れ。 11. 自由党、四党首会談を拒否。	5. 全農派16名脱党。 16. 社会党第三回大会(～18) 森戸・稲村論争。四党政策協定破棄を決定。委員長片山哲、書記長浅沼稻次郎、会計中嶋敏。	
2	5. 衆院予算委(委員長鈴木茂二郎社会左派)、補正予算撤回動議可決。 10. 片山内閣総辞職。 10. 芦田内閣成立。	23. 平野派、社会革新党結成。全農派有志議員クワゾ解散。革新新党準備会結成(議員20名)。 10. 芦田内閣に、社会党から西尾副総理など8名入閣。	26. 第10中総で「平和と民主主義・民族独立のための宣言」を採択し、以後社会党・労働組合・大衆団体に民主民族戦線の結成を提唱。
3	12. 衆院同志クワゾ解散。民主クワゾ結成。(議員36名) 14. 自由党、民主・国協両党に対し保守提携申し入れ。 15. 幣原喜重郎ら民主クワゾと日本自由党が合体、民主自由党を結成(総裁、吉田茂)。 20. 民主党、太陽会、反芦田の声明発表。田中衆院副議長他2名、民主党離党。		
4			5. 共産党、「平和と民主主義・民族独立のための宣言」発表。
5	5. 民主党第4回大会政策決定。 15. 国協党、第3回全国大会開催。 25. 民自党、野党連合結成決定。	12. 社会党、軍事公債利払につき民主党の要協案受け入れ。	
6	11. 最高検、献金問題で、西尾副総裁を起訴。 5. 第2回国会(通常)閉会。 31. 芦田、片山、三木三党首会談。	6. 西尾副総裁辞任。 7. 社会党中執委、西尾末広の役員解職と、黒田秀男らの除名決定。	
7			26. 第12中総で講和に対する基本方針を決定し発表する。ユーゴへの批判を決議する。
8			
9	10. 昭電事件。 14. 社・民・民・国協三党首会談(臨時国会対策)。 7. 芦田内閣総辞職。 10. 五党首会談(吉田民自・片山社会・芦田民主・三木国協・佐竹社革、時局收拾のため)。 11. 第3回国会(臨時)召集。 19. 第2次吉田内閣成立。	9. 民自党大会(宣言・緊急19日政策決議) 14. 民自党野党宣言。首班指名には白紙投票。 6. 昭電事件で西尾逮捕、社会党西尾に離党勧告。 8. 社会党中執委、西尾除名を決定。	
10			
11	30. 第3回国会(臨時)閉会。	7. 芦田民主党総裁辞意表明。	
12	1. 第4回国会(通常)召集。 22. 内閣不信任案成立し衆議院解散。	10. 民主党、第5回大会犬養健を総裁に正式決定。 29. 農民新党結成。	2. 労働者農民党結成(首席黒田秀男)。

	一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	23. 第24回衆院選挙。		5. 社会党、共産党の社共合同申し入れ拒否。 23. 総選挙で大敗(民自264、民主69、社会48、共35、国協14、労農7)。	23. 総選挙で共産党大躍進。この年より、伊藤律らの提案により「社共合同」戦線術をとり、社会党組織の吸収はかる。
2	11. 第5回国会(特別)召集。第2次吉田内閣総辞職。 16. 第3次吉田内閣成立。	14. 民主党政見総会分裂(野党・与党)野党派、閣外協力を再確認。	5. 社会党幹部総辞職(役員26名)。	5. 第14回拡大中委で野放から議会主義利用の効用性、平和革命の意義について報告し、伊藤は社共合同運動の成果を報告する。
3	7. ドッジ公使、日本経済安定政策を明示。	8. 民主党連立、野党の両派全国大会開催し分裂確定。		
4			14. 社会党第4回再建大会(～16)委員長片山、書記長鈴木茂三郎、会計中嶋。	
5	31. 第5回国会閉会。	21. 民主党野党派、保守合同反対声明。		
6	30. 平事件発生。			18. 第15回拡大中委で徳田・野坂は9月までに吉田内閣を打倒すると強調する。9月革命説拡がる。
7	4. 国鉄第一次整理30,700名と発表。 15. 下山事件。			
8	18. 松川事件。	22. 広川民主党幹事長、犬養民主党総裁と保守合同で懇談。		
9	15. シヤーマ税制改革勧告発表。			
10	25. 第6回国会(臨時)召集。			
11				
12	3. 第6回国会閉会。 4. 第7回国会(通常)召集。 9. 新選別結成。	24. 吉田首相保守合同の所信を表明。	7. 社会党中執委、講和に対する三原則を決定。	

戦後政党史(福岡政行)

一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	20. 民自党第3回大会。	16. 社会党第5回大会(～19)第1回の左右分裂。 19. 右派社会党大会。委員長片山、書記長水谷長三郎、会計中崎。 19. 左派社会党大会。書記長鈴木(茂三郎)、会計和田博雄。	6. 極東における米ソ対立の急展開を背景にコミンフォルム、日本共産党の平和革命理論(野坂理論)批判。日本共産党の内部対立。
2		28. 社会党中央執行委員会「全面講和・中立堅・軍事基地反対の平和三原則決定。のちに再軍備反対を加えて平和四原則となる。	
3	1. 民自党・民自党連立派と合同し、自由党を結成(總裁、吉田茂)		
4	28. 民主・国協両党合同、国民民主党結成(最高委員長吉野米地義三)。	3. 社会党第6回臨時大会。左右統一。委員長空席、書記長浅沼稻次郎、会計下条恭平。	28～30. 第19中総で徳田提出のテーゼ草案めぐり大論争となる。以後徳田派は反対派を強行処分する。
5	2. 第7回国(通常)会閉会。		
6	4. 第2回参院選挙(自由52、社会36、民主9、緑風9、農民共同3、共2、労働2)。 25. 朝鮮戦争始まる。 28. 吉田内閣大改造。		6. 日本共産党全中央委員、ワッকারサー命令により追放、党の分裂はじまる。
7	11. 日本労働組合総評議会結成大会。 12. 第8回国会(臨時)召集。 31. 第8回国会(臨時)閉会。		31. 全国の反対派が結果して全国統一委員会(国際派)を結成する。ほかに、国際主義者団体結派・統一協議会などの反対派組織がつかられる。
8			
9			3. 『人民日報』の9・3社説が現われ、両派話し合うも統一に失敗する。この前後、徳田・野坂らは中国に渡り国際的支持もとめる。
10	24. 米政府、対日講和7原則を公表。		22. 全国統一委解散するも、統一失敗のため12月再結集して、全国統一会議をつくる。
11	21. 第9回国会(臨時)召集。		
12	9. 第9回国会(臨時)閉会。 10. 第10回国会(通常)召集。	28. 社会党中執委、全面講和、中立軍事基地反対の平和三原則決定。	

1951年

	一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	25. グレス講和使節団来日。	20. 自由党大会で自主・自立・自衛の三原則に基づき宣言、綱領、新政策決定。	19. 社会党第7回大会（～21）委員長鈴木茂三郎、書記長浅沼稻次郎。 第7回大会で平和四原則決定。	23～27. 徳田派秘密に四全協をひらき、軍事方針と分派に対する法議とを採択する。反対派は組織活動をすすめ、2つの共産党の対抗となる。
2			1. 鈴木、浅沼がグレス米特使に講和三原則申し入れ。	
3				
4	11. ツッカーカー解任。後任リッジウェイ中将。			
5				
6	20. 第1次追放解除発表（政財界著名人 2,958人）。 5. 第10回（通常）国会閉会。		30. 第2社会主義インターに、鈴木委員長、和田博雄、稲村順三両中執出席。	
7	4. 吉田内閣第2次改造。		26. 講和全権参加を拒否。	
8	6. 第2次追放解除発表（鳩山一郎ら 13,904人）。 16. 第11回国会（臨時）召集。 18. 第11回国会（臨時）閉会。			19. 徳田・野坂の懇請でスターリンが起草した民族解放民主革命の新綱領が、第20中総に提出される。以後公然・非公然の全党討論にかけられる。 21. 共産党第20回中央総会・当面の革命を民族民主主義革命とする武力革命方式の綱領採択。
9	8. サンフランシスコ対日講和条約及び日米安全保障条約調印。			
10	10. 第12回国会（臨時）召集。 26. 講和・安保両条約衆院で承認。	11. 民主党議員総会新政クラブとの合流了承	5. 社会党中執委、平和条約賛成、安保条約反対を党議決定。 24. 社会党第8回臨時大会。講和方式で左派平和、安保両条約反対、右派平和条約賛成、安保条約反対を主張し、第2回の分裂。	16. 五全協で、軍事方針を含む新綱領（51年綱領）採択。
11	18. 両条約参院で承認。 30. 第12回国会（臨時）閉会。			
12	10. 第13回国会（通常）召集。 25. 吉田内閣第3次改造。	8. 民主党、第3回臨時大会、新党結成を決議宣言、緊急5政策（外交・地方行財政、食糧政策・戦争犠牲者対策等決定）		

戦後政党史（福岡政行）

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	保守党	社会党	共産党
1		20. 右派社会党大会 (~21) 書記長浅沼、会計下条。 28. 左派社会党大会 (~29) 委員長鈴木、書記長野溝勝、政審会長和田。	
2	8. 改進黨結成。		1. 地下指導部「中核自衛隊の組織と戦術」を発表する。軍事委員会の指導による武装組織と武装闘争の計画がすすめられる。
3	17. 自由党第6回臨時大会。総裁、吉田茂再選。		
4	28. 村日講和・安保兩条約発効。	4. 左社、右社と労働党に統一を申し入れ。	
5	1. 第23回メーデー、人民広場でデモ隊と警官隊衝突、血のメーデーとなる。 3. 講和発行。		1. メーデー大衝突事件おこり、一部の軍事組織の動員にとどまった地下指導部は仰天、これにより、武装化と軍事組織の動員に拍車をかける。
6		13. 改進黨臨時大会、重光葵総裁決定、宣言発表。	
7	21. 破防法公布施行、公安調査庁発足。 31. 第13回国会閉会。	23. 協同党結成大会。委員長平野力三。	
8	1. 保守庁新設。 26. 第14回国会(通常)召集。 28. 第14回国会衆議院解散(抜打)。 31. 参議院緊急集会(1日)	12. 右社西尾末広の復党承認。 25. 右社臨時大会。委員長河上丈太郎。	
9		29. 自由党石橋湛山、河野一郎を除名。	
10	1. 第25回総選挙(自由240、改進黨85、右社57左社54、労働4、協同2、共0)。 24. 第15回国会(特別)召集。 30. 第4次吉田内閣成立。	18. 協同党改党、右社へ合流。	1. 衆院選挙で議席全減する。
11			
12		23. 自由党石橋、河野の除名取消。	



一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	13. 岸信介、自由党に入党。 30. 自由党役員人事で妥協なり、幹事長に吉田派の佐藤栄作、総務会長に鳩山派の三木武吉就任。	6. 第1回アジア社会党会議（～15、ラングーン）。 18. 右社大会（～20）委員長河上、書記長浅沼、会計伊藤卯四郎。 21. 左社大会（～23）委員長鈴木、書記長野溝、政審会長和田。	
2	25. 党人事を不満とした農相広川弘禪同志15人と党内野党、同志クラブを結成。		
3	18. 分派自由党結成（総裁鳩山一郎）広川派15人も同調。		
4			総選挙で1名当選する。この後の中央の会議で地下指導部の派閥交代おこなわれ志田派は主尊権を握る。伊藤派追われる。
5	8. 自由党分裂派議員総会。	17. 左社臨時大会。	
7		15. 第3回社会主義インター。	
8		10. 第2回アジア社会党会議幹事会（インド）。	
9			21. 『アカハタ』は伊藤律をスパイとして処分したと発表する。
10		27. 左右両社委員長、書記長四者会議で政局問題協議。 30. 左社、新綱領案決定。	14. 徳田球一書記長、亡命先の北京で客死。
11	8. 自由党岸信介、石橋湛山を除名。 24. 日本民主党（総裁鳩山一郎）結成。 29. 分派自由党の鳩山ら23人復党。三木武吉ら残留組8人日本自由党を結成。	19. 左右両社会党統一懇談会初会合。左社安平鹿一、横路節雄、赤松勇、右社三宅正一、河野密、曾弥益出席。	
12	8. 吉田自由党総裁辞任。 15. 自由党内に憲法調査会（会長岸信介）外交調査会（会長津島寿一）を設置。	4. 左右両社会党初の合同演説会。	

戦後政党史（福岡政行）

	一般政治史	保守党	社会党	共産党
1	9. 吉田内閣改造。	20. 改進黨第6回全国大会開催。 23. 自由党第8回大会、新政策・綱領決定。	17. 右派社会党大会(～19)統一方針決定。 委員長河上、書記長浅沼。会計伊藤。西尾未広、平野力三顧問。 21. 左派社会党大会新綱領、統一方針決定。 委員長鈴木、書記長和田博雄、政審会長伊藤好道、統制委員長佐々木更三。 28. 左右社会党首脳が吉田内閣打倒のための共闘強化を申し合わせ。	1. 『アカハタ』に1・1決定を発表し、従来のセクト主義を反省する。
2			23. 左右社会党委員長会議。吉田内閣打倒と次期政権担当について表明。	
3	8. 日米MSA協定調印。		2. 左右両社統一交渉委、政策協定決定。 22. 左右両社統一について、両党委員長が共同声明(京都)。	
4	21. 犬養法相、造敵嫌疑で指揮権発動。 22. 全日本労働組合会議。	13. 自由党「両党解体、新党結成、党首公選」の原則による保守合同を改進黨によりびかけ。		
5		7. 松村改進黨幹事長、三木日自党最高顧問保守新党問題で会議。 13. 改進黨両院議員総会、新党結成の方針決定。		
6	15. 第19回国会閉会。	23. 自由、改進黨交渉委員会決議。		
7	1. 自衛隊発足、改正警察制度(警察庁、都道府県警察)発足。	3. 自由党反主流派「新党結成準備会」を結成。		
8			3. 両社統一準備会。	
9		19. 鳩山一郎、重光葵ら6者会議、保守新党結成で一致。	27. 両社統一委初会合。	
10		11. 新党結成準備会、政策大綱案発表。	1. 日本社会党労働大学開校。	
11	30. 第20回国会(臨時)召集。	23. 改進黨解党決定。 24. 日本民主党結成(総裁鳩山一郎氏)。 25. 日本自由党解党、衆院届け出。	10. 両社六者会議(左社一鈴木、和田、伊藤右社一河上、浅沼、三宅)。 20. 両社、共同政策大綱発表。	
12	7. 吉田内閣総辞職。 9. 第20回国会閉会。 10. 第21回国会(通常)召集。 第1次鳩山内閣成立。	8. 自由党吉田総裁辞任、緒方竹虎、総裁に就任。	14. 両社統一促進委員会(左社一伊藤、岡田宗司、山花秀雄、亀田得次、右社一三宅正一、河野密、加藤勲十、松井政吉)総選挙後の統一申し合わせ。	7. 選挙綱領を発表する。

1955年

	一般政治史	保守党	社会党	共産党	公明党
1	24. 衆議院解散。 27. 第27回衆議院選挙。		18. 左社、右社それぞれ臨時大会を開き、統一方針を決定。	1. 「アハタ」に1・1方針を発表し初めて公然と極左冒険主義のゆきすぎを反省する。 27. 衆院選挙で、川上・志賀当選し73万票とる。	
2			15. 社会党の統一気運高まり、左右両社委員長会談で、「社会党政権樹立」を呼びかける共同声明。 27. 共同政権をスローガンにした両社会党は第27回総選挙で躍進（左社89、右社67）。		
3	19. 第2次鳩山内閣成立。 18. 第22回国会（特別）召集。				
4					23. 都議に無所属（創価学会推薦）で1人当選したのをはじめ、地方政界に初進出。
5	28. 日ソ交渉ロンドンで開始。				
6		4. 鳩山民主、緒方自由両党総裁会談、保守合同の原則で一致。			
7	26. 総評第6回大会、事務局長に岩井章氏。 30. 第22回国会閉会。	9. 民主・自由両党四者会談、新党の政策を今国会でまとめる旨を申し合わせ。	14. 第4回社会主義インター（ロンドン）。	27. 軍事冒険主義を自己批判して六全協開く（～29）。	
8	6. 第1回原水爆禁止世界大会（広島）。 1. 重光・ダレス共同声明発表。 28. 民主・自由両党合同演説会。		◆ 左派を支援する社会主義協会の向坂逸郎らは、両社合同を「無原則統一」として反対を表明。 16. 右社中執委、新綱領草案を承認。 18. 左社中執委、新綱領草案を承認。 19. 左社第14回党大会（～20）統一方針、統一綱領草案、統一規約草案を承認。 13. 社会党統一大会、委員長鈴木茂三郎、書記長浅沼稲次郎。		
9					
10					
11	21. 第2次鳩山内閣総辞職。 22. 第3次鳩山内閣成立。第23回国会（臨時）召集。	15. 自由民主党正式に発足、保守の統一。			
12	16. 第23回国会閉会。 20. 第24回国会（通常）召集。				

戦後政党史（福岡政行）

戦後政党史（樞閣政行）

一般政治史	自民党	社会党	共産党
1	20. 小選挙区法案で、自民・社会両党々首会議。 24. ソ連共産党第20回大会、スターリン批判。	28. 総裁代行委員緒方竹虎急死。	13. 党員が最盛時の半になったと発表する。
2	18. 鳩山内閣の小選挙区制法案に反対し、社会、労働、共産、院内や共同演説会で統一して反対。	5. 自民党大会、初代総裁に鳩山一郎を選出。	16～27. 第6中総において1月から失脚中の志賀について審議し、常任幹部会員・書記局員を解任する。
3	16. 衆院小選挙区法案区割りを切り離して通過（参院で未了）		15. 神山派の除名取消しを発表する。以後神山の復党をめぐり、新中央と紛糾する。
4	3. 第24回国会閉会。		28. 産別会議第6回大会で、春日（正）が党のおやまりを自己批判し陳謝する。
5	8. 第4回参院選挙（自民61、社会49、緑風5、共産2）。		
6	27. 総評、共産党との共闘禁止を修正。		
7		4. 自民党十日会鳩山首相の訪ソ反対決議。	10～12. 第8中総で地下時代の婦人同志への不道徳行為により、推野の中央委員罷免を決定する。志田の「離党」をも確認する。
8		13. 社会党中央委声明「日ソ国交回復のための暫定協定による交渉方針を」決定。	
9	19. 日ソ国交回復宣言、通商航海議定書調印。		8. 第9中総をひらき、党大会の準備を決定し、綱領問題・50年問題などの小委員会設置を定める。
10	12. 第25回国会（臨時）召集。		
11	13. 第25回国会閉会。 19. 国連総会日本加盟案全会一致で可決。 20. 第3次鳩山内閣総辞職。 23. 石橋内閣成立。	14. 自民党大会で石橋湛山を総裁に選出。	
12			

一般政治史	自民党	社会党	共産党
1		10. 社会党訪中使節団 (団長浅沼)。 16. 労働党大会で社会党への復帰決定。 17. 社会党第13回党大会 (~19)。	
2		2. 社会党「2つの中国」を認めないと中執委で決定。	◆. 書記局から、「反党分子のしゅん動」について、通達し、志田派の働きかけを擁護する。
3	21. 自民党大会、岸信介を総裁に選出。	22. 社会党訪中使節団 (団長浅沼) 毛沢東主席と会談、共同コミュニケ発表。	◆. 春日 (正) は大沢・武井らを非難し、党内革新の進行を抑制する。
4			
5	19. 第26回国会閉会。		
6	21. 日米首脳会談終り、「日米新時代」の共同声明。		
7	10. 岸内閣改造、「三悪追放」表明。	26. 社会党統制委、全購連汚職問題で和田政審会長、野清勝、江田三郎らを処分。	
8	6. 第3回原水禁世界大会 (東京)。		
9		19. 社会党訪中親善使節団 (団長片山哲)。 28. 社会党訪米使節団 (団長河上丈太郎) 出発。	◆. 綱領論議のため『団結と前進』を創刊しつづいて「日本共産党党章草案」その他の文書を発表する。
10			◆. 東京都委員会から党章への反対意見を発表し、全党に党章をめぐる論争が展開する。
11	1. 第27回国会 (臨時) 召集。 14. 第27回国会閉会。		◆. モスクワに64カ国の世界共産党・労働者党の会議ひらかれ、志賀・藏原が出席する。12カ国モスクワ電言発表される。
12	20. 第28回国会 (通常) 召集。		

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	自民党	社会党	共産党
1	24. 自民党第5回定期大会開催。	24. 社会党第14回党大会。四役制を採用。委員長鈴木、書記長浅沼、会計伊藤(卯)統制委員長猪俣三。	
2		16. 沖繩社会党結成。 24. 社会党第14回大会。	
3			11. 東京都党などの推進で神山復党する。
4	18. 解散について自・社会党会議。		
5	22. 第28回総選挙(自民287、社会166、共1)。		22. 衆院選挙で当選1名、党勢やや回復する。
6	10. 第29回国会(特別)召集。 12. 第2次岸内閣成立。		1. 全学連代議員グループ会議で中央代表つるしあげられ、中委の不信任を決議される。(6・1事件)
7	8. 第29回国会閉会。		23. 日本共産党第7回大会。51年綱領を廃止し、宮本顕治・書記長になり、宮本体制スタート(〜8/1)。
9	12. 藤山外相・タシス会議で安保条約改定で一致。 29. 第30回国会(臨時)召集。		
10	25. 警職法反対の第1次統一行動、社共両党及び総評を主力に盛りあがる。地域共闘・全国に広がる。		
11		11. 社会党第15回臨時党大会(〜12)警職法紛糾、岸内閣打倒を決議。 22. 岸首相、鈴木委員長会議で警職法改正案の審議未了を確認。	20〜23. 第3中総で「党生活の確立と党勢拡大の運動」を定める。
12	7. 第30回国会閉会。 10. 第31回国会(通常)召集。	27. 自民党反主流派三閣僚(池田勇人・三木武夫・灘尾弘吉)辞表提出。	10. ソ連・中共の日本の中立化期待の声明に応じて、幹部会には突如中立支持の声明を出す。

	一般政治史	自民党	社会党	共産党	公明党
1	12. 岸内閣改造。	24. 自民党第6回大会岸信介を総裁に公選。		10~12. 第4中総で日本の中立を是認し要求する決議を採択する。	
2					
3	28. 安保条約改定阻止国民会議結成。		4. 訪中使節団(团长浅沼) この訪中で浅沼が「アメリカ帝国主義は日中両国民の敵」と演説。	28. 安保国民会議成立し、党はオアザーバーで参加する。「アカハタ」日曜版の発刊。	
4	10. 皇太子、御成婚。				
5	2. 第31回国会閉会。				
6	2. 第5回参院選挙(自民71、社会38、共1)。 22. 第32回国会(臨時)召集。	12. 河野一郎「今後中政権に協力しない」と爆弾声明。		6月~8月二次にわたる第6中総で選挙の総括をめぐって大論争を展開し、春日(正)の論文取消しとなる。第8回大会へむけて党員倍加運動の展開を決定し、『現代の理論』の規律違反を決議する。宮本指導体制の本質しだいに表面にあらわれる。	2. 参院選で6人当選(地方区1人、全国区5人)計9人に。
7			19. 西尾末広、安保改定など党の方針を批判。 8. 社会党運動方針委員会、党の性格は階級的大衆政党であることを確信。 <sup>18)</sup>		
8		5. 自民党河野派、川島幹事長に對し、安保条約・行政協定の改定を慎重にすることを申し入れ。			
9		8. 岸首相、自民党七役会議で「安保条約の改定はいかなる障害があっても絶対に実行する」決意表明。	12. 社会党第16回党大会(~15) 西尾問題で統制委付託を可決後西尾派退場。16日休会。 21. 左派西尾除名決定。		
10	26. 第33回国会(臨時)召集。		16. 社会党大会再開(~17) 西尾議責処分決定。委員長鈴木、書記長浅沼、統制委員長重盛専治。 25. 西尾派脱党(衆院21、参院12) 社会クラブ結成。		
11			25. 今澄勇ら16名脱党、民社クラブ結成。 30. 社会党脱党グループ「民主社会主義新党準備会」を結成。 25. 西尾新党、民主社会党と名づくる。	27. 国会突入事件おこり、党は突入デモ隊を非難する。	
12	27. 第33回国会閉会。 29. 第34回国会(通常)召集。				

戦後政党史 (福岡政行)

	一般政治史	日民党	社会党	共産党	民社党
1	19. 岸首相 日米新安保条約に調印。 25. 三池闘争、無期限天下突入。		27. 社会党中央委「新安保阻止闘争」決定。	22～26. 第8中総で中央に返事をだした下部組織が50%たらずとして、返事運動を一段強化する。	24. 民社党結党大会。委員長西尾末広。参院議員17人、衆院議員40人書記長岸弥生。
2	19. 衆院安保特別委員会審議開始。				
3	17. 子毛規制法案の質疑打ち切り強行に反対して審議拒否。		6. 社会党員総決起大会。新安保反対、岸内閣打倒、解散要求。求を決議。23. 社会党第17回臨時大会（～24）委員長浅沼昭船次郎、書記長江田三郎。	◆4月以後全国への安保共闘組織は総動員され、は全国1700の安保共闘組織を64%まねて正式加入して青年労働者層の創意的行動を党の対立、次第に激化する。	
4			22. 社会党、安保闘争で非常事態宣言。		
5	19. 安保条約採決強行。 安保闘争激化。				9. 民社党両院議員団総会、新安保条約阻止申し合わせ。
6	10. ハガチー事件。行動、神美智子死亡。 15. 安保共闘統一行動、神美智子死亡。 19. 日米新安保条約批准官交換（東京）。	19. 自民党三木・松村、河野、石橋三派有志母体人会、新安保条約批准延期、岸内閣辞職申し合わせ。	6. 社会党第18回臨時大会。議員総辞職を決定。解散要求。 17. 社会党河上武太郎顧問刺傷事件 19. 社会党議員総会で議員総辞職中止を決定。	10. ハガチー事件に党組織を大挙動員する。全国580万・国会15万の行動員となり、全国構事件おこり、大動員中止。7/11. 第11中総で第8回大会を総選挙運動にのびすことと決意し、先遣の労働者倍加運動に全7月の的指導への批判が、党の「前衛」的指導への批判があふれる。	13. 岸・西尾会談ブイク歓迎で一致。
7	15. 岸内閣総辞職、第34回国会閉会。 18. 第35回国会（臨時）召集。 19. 第1次池田内閣成立。 22. 第35回国会閉会。	14. 自民党大会で池田勇人総裁に当選。			
8					21. 民社党第12回大会選挙対策を決定。
9					
10	17. 第36回国会（臨時）召集。 24. 衆議院解散。		12. 社会党浅沼委員長、日比谷公会堂で演説中、山口二矢に刺江田三郎委員長代行の下に構造改革論導入。		
11	20. 第29回総選挙（自民296、社会145、民社17、共3）。 モスワフ声明。			20. 衆院選挙で3名当選する。得票数は14万票となる。東京では1第14中総で選挙総括めい、大論争となす。中野、西川、藤山、神山満場一致の慣行をややぶる。	
12	5. 内閣総辞職。 8. 第2次池田内閣発足。 22. 第37回国会閉会。 26. 第38回国会（通常）召集。		◆社会党左派、総評太田薫議長ら構造改革論を批判して論争展開。	7. 宮本、袴田の参加した91カ国モスワフ声明が規定したとす。本主義國の問題が論争のまこととなる。	

戦後政党史（福岡政行）



1	一般政治史	目	民 党	社 会 党	共 産 党	民 社 党
2			5. 構造改革論に基づく運動方針案発表。定阻止国民会議「安保反対 平和と民主主義を守る国民会議」と改称。	◆ 東京千代田地区・東京都大塚府・その他の党革新分隊に圧力をかけて役員から排除する。	23. 民社党第3回再建大会(～25)委員長西尾、書記長當根。	
3			6. 社会党第20会党大会。委員長河上丈太郎、書記長江田。	1～13. 第16中総に綱領草案論を展開する。または役員44名を10名が反対は綱領反対派の統制を中央抑制制、官僚的圧迫に力をおける。		
5				6～8. 都道府県委員綱領指示に於いて、厳重な規制を指す都府の道に於いて、新派議員の排除を強行する。		
6	3. 米ノ首脳ワイドン会議。 8. 第38回通常国会。 21. 池田・ケネディ一会議。 18. 池田内閣改造。	15. 国民協会発足。	13. 社会党訪ノ使節団(国長河野密)。	9～10. 第17中総で中央反対派の意見発表中止を決める。		
7				7 春田(正)難を川ら6 出、声 7 中央に出る。西川ら6 出、声 20 名を擁護する。7 名を擁護する。 25 名を擁護する。7 名を擁護する。 31 名を擁護する。7 名を擁護する。 31 名を擁護する。7 名を擁護する。		
8	9. 第7回原水禁世界大会(東京)					
9	25. 第39回国会(臨時)召集					
10	31. 第39回国会閉会。			7～9 離党組は社会主義革新運動準備会の創立総会を局長内藤。		
11	2. 日米貿易経済合同委開催。 16. 池田首相東南7四カ国訪問へ。 27. 公明政治連盟結成。		8. 社会党第35回中央委員会議江田政治報告を承認、構草論争起こる。	18～20. 第2中総において8回に於つき、37万に達する。10万を中、中間目標として15万に増やすことにする。		
12	9. 第40回国会(通常)召集		30. 社会党第3次訪中使節団(団長鈴木)			

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	日 民 党	社 会 党	共 産 党	民 社 党	公 明 党
1		13. 中国人民外交学会と共同声明発表。 20. 社会党第20回党大会（～22）。社会主義理論委員会設置決定。委員長河上、書記長江田、統制委員長黒田寿男。		25. 民社党第4回党大会（～27）。委員長西尾、書記長曾祿。	
2					
3					
4	26. 同盟会議結成				2. 機関紙「公明新聞」創刊。
5	7. 第40回国会閉会。				
6					
7	1. 第6回参議院選挙（自民69、社会87、民社4、共3） 18. 池田改造内閣成立。		13. 第3中総で4つの旗を定め、綱領路線の普及と徹底をはかる。		1. 第6回参議院選挙で9人全員当選。非改選議員6人と合わせて15人となり、院内交渉団体として「公明会」を結成。
8	6. 第8回原水禁世世界大会（東京）ノ連の核実験で紛糾。 4. 第41回国会（臨時）召集。		1～6. 第8回原水禁世世界大会でソ連核実験への抗議に反対して、社会党・総評系と対立する。		
9	2. 第41回国会閉会。			15. 民社党第5回党大会（～17）委員長西尾、副委員長伊藤卯四郎、書記長西村栄一。	13. 第一回公明政治連盟結成。全国大会。
10	5. 政府「全国総合開発計画」決定。	9. 江田書記長「江田ビジョン」発表。	5～8. 第4中総の報告と決議で社会党・総評を社民と規定し、強硬路線を打ち出す。綱領路線を基準とする民族民主統一戦線をおしだし、総評依存主義からの脱皮と独自の組合＝大衆活動を志向する。以後、あらゆる大衆運動に2つの教諭をもちこむ。		
11		27. 社会党第22回党大会（～29）江田ビジョンが否決され江田書記長辞職。委員長河上、書記長成田知巳、統制委員長黒田。			
12	8. 第42回国会（臨時）召集 23. 第42回国会閉会。 24. 第43回国会（通常）召集。				

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1 24. 日韓会谈粉碎国民会議。			11. 「平和と社会主義の諸問題」		
2			13~15. 第5中総で初めて中ソ論争の存在を認める。		
3 1. 原水協再分裂。			8. 前中央委員波多のグループ離党声明を出す。 ◆. 統一地方選挙に都道府県議22名・5大市議14名・市区町村議666名が当選する(25%増)。		18. 「都議会公明会」結成。
4					
5					
6 6. 第43通常国会閉会。 18. 池田内閣改造、新美力者休削発足。 6. 第9回原水禁世界大会分裂。社会党系は日本原水協に對抗して、原水禁国民会議結成。 18. 日本、部分核停止条約に調印。			3. 幹部会声明で部分核停条約不支持を表明する。		18. 第2回公明政治連盟全国大会。
7					
8			23. 宮本NHKで初めて「自主独立の立場」とのべる。		
9 14. 訪中経済使節団出発(团长岡崎嘉平太)。		9. 第8回社会主義インター(アムステルダム)	15~18. 第7中総で第5中総決議を補足訂正した新決議採択。間接にソ連を批判し、中共寄りを一層明らかにする。 21. 衆院総選挙に5名、164万票を獲得、前回より約49万票の増加となる。		14. 第3回公明政治連盟全国大会。
10 4. 日中友好協会(会長藤承志)発足 15. 第44回国会(臨時)召集。 23. 第44回国会衆議院解散。	17. 組織調査会、党近代化につき答申(二本答申)。	◆. 社会党第12回大会、「江田ビジョン」の否決、江田書記長辞任、新書記長に成田知巳。			
11 21. 第30回総選挙(自民283、社会144、民社23、共5)。 22. ミケネデイ大統領暗殺。					
12 4. 第45回国会(特別)召集。 ◆. 経済審議会「国民所得倍増計画中間検討報告」 9. 第3次池田内閣成立。 18. 第45回国会閉会。 20. 第46回国会(通常)召集(常会5.17日まで)。			題』を「日本語版」から「日本版」にきりかえて発売する。		

戦後政党史(福岡政行)

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1				25. 民社党第6回党大会(～27) 委員長西尾、副委員長伊藤、書記長西村。	
2		22. 社会党第23回党大会(～24) 社会主義理論委員長承認。委員長河上、書記長成田、統制委員長加藤勤十(佐々木派など反主流派役員総引き上げ)	2～11. 日ソ両党会談は対立状態のまま終る。		
3					
4	28. 日本経済開発協力機構(OECD)に正式加盟。		8. 4・17ストに封する警告声明をだし、以後スト反対作を公然化、全名古屋中郵その他党内から批判の声あがる。 15. 衆院本会議で志賀は核身停条約に賛成票投し、衝撃を与える。第8中総において志賀・鈴木を除名処分。 11. 文化人党員12名は中央批判の要請を送る。 13～15. 第9中総で4・17スト反対への自己批判決定。あて二書簡を公表し、日共も以後、全面的にソ共指導部への批判と攻撃を展開する。		
5					
6	26. 第46回国会閉会。 3. 憲法調査会最終報告書首相に提出。 18. 第3次池田内閣改造。	27. 社会党訪ソ、訪欧使節団(团长成田)。 10. 自民党総裁公選、池田三選。			
7					
8	7. 南ベトナム全土に非常事態宣言。		23～27. 第10中総で神山・中野の党の目標権を停止、神山ら中央批判の文書をだし、党中央と論争する。		
10	10. 五輪東京大会。 25. 池田首相退陣表明。	14. 社会党第4次訪中使節団(团长成田)。	5. 「アカハタ」主張でソ連提唱の起草案に反対する。 24～30. 第9回大会を開き、中委政治報告などを採択する。		
11	9. 池田内閣総辞職。後継首相に佐藤栄作指名。第47回国会(臨時)召集。				7. 公明党結成大会(委員長原島宏治)。
12	2. 第7回原水禁代表者会議「原水爆禁止日本国民会議」結成を決める。 21. 第48回国会(通常)召集。	1. 自民党臨時党大会、佐藤首相を正式に新総裁に選任。 8. 社会党第24回新設本党大会(委員長河上博雄、書記長成田、副委員長佐藤義典)の道義論争			9. 原島委員長死去、後任に辻武寿委員長。

	一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1	10. 佐藤首相訪米。	22. 自民党内委員長会議。衆院の二委員長を社会党へ。				
2	1. 原水禁日本国民会議結成大會。 10. 「三矢計画」問題化。 20. 椎名外相、日韓基本条約に調印。		16. 社会党中総派遺團(团长佐々木更三)。		13. 民社党第7回党大会(～15)委員長西尾、副委員長伊藤、書記長西村。	
3	27. 日韓会議反対中央集会(東京)。		10. 社会党河上委員長辞意表明。	23～24. 第2中総で長期と短期の党員増加(2年後15万増、参院選まで3万増)計画を決める。		
5	17. ILO87号条約と関係国内法成立。		6. 社会党第25回臨時党大会河上委員長辞任に伴い委員長佐々木更三、副委員長河野密を選出。 22. 社会党佐々木委員長、熊本市で野党連立政権構想発表			
6	1. 第48回国会閉会。 1. 緑風会解散。 3. 佐藤改造内閣発足、河野一郎閣外へ。 14. 都議会議りコール解散。		9. 社共及び総評でベトナム戦争反対の日共生。 22. 社会党連立政権構想発表	22. 「アカハタ」でソ共指導部の日本への干渉と破壊活動を激しく非難する。		
7	4. 第7回参院選(自民71、社会36、公明11、民社3、共3)。 22. 第49回国会(臨時)召集。		23. 東京都議会議選挙で社会党第一党。	4. 参院選挙で全国区2名、165万票、地方区1名261万票をとる。議席3より4に増える。 23. 東京都議選挙で2名から9名に増、前回の18万票から38万票に増加する。		4. 第7回参院選で11人当選 24. 都議選で23人全員当選。
8	11. 第49回国会閉会。 18. 佐藤首相、沖縄訪問。		16. 社会党第26回臨時大会「ベトナム侵略反対、日韓批准阻止、経済危機突破」党組織拡大強化の活動方針決定。	24. 佐世保の原潜反対で社・共の現地共闘が実現する。		
10	5. 日韓問題を自、社、民、公四党首会議。第50回国会(臨時)召集。					
11	2. 衆院で船田議長日韓案件強行採決。	6. 衆院日韓特別委で強行可決。		9. 日韓闘争で初めて社・共共闘の共闘方式が実施される。全国329カ所で23万人を動員する。		17. 第2回党全国大会。
12	13. 第50回国会閉会。 18. 日韓条約批准書交換(ソウル)。 20. 第51回国会(通常)召集。 28. 日韓漁業協定成立(李ライフ撤廃)。	4. 参院日韓特別委で強行可決。			2. 民社党第8回党大会(～4)委員長西尾、副委員長伊藤、書記長西村。	

戦後政党史(福岡政行)

戦後政党史 (福岡政行)

	一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1	21. 日ソ航空協定成立。		4. 社会党『明日への期待—社会党政権下の政治』を発表。 19. 社会党第27回大会、委員長佐々木、書記長成田。	～3月、宮本書記長、中国、北ベトナム、北朝鮮三国訪問。上海で宮本・毛沢東会谈決裂。		
2						
3						
4	◆ 社・公・民・共の全野党、佐藤内閣が進めようとした、小選挙区制反対に院内共闘。			12～14. 全国都道府県委員長会議で宮本は初めて名ざして中共を非難する。		
5	27. 第51回国会閉会。		17. 「非武装中立と平和共存をめざして」と題する安全保障政策1次試案をまとめる。	16. 自主独立強調のルー・アニーア共産党との共同コミニケを発表する。		25. 第3回臨時党全国大会。衆院進出方針決定。
6	4. 閣議新国際空港を成田三里塚に建設と決定。 11. 第52回国会(臨時)召集。					
7	1. 第2次佐藤内閣改造。 5. 東京地検、田中彰治代議士(自)逮捕。			10. 解放戦線派(志田派)の分派活動と闘争をアピールする。志田派は中共的立場から宮本体制を修正主義と批判する。 27. 第6中総で第10回大会への中央委員会報告案を採択する。 13. 『赤旗』で中共を非難する。日中友好協会その他に党員間の対立が拡大する。 13. 『赤旗』で中共を非難する。日中友好協会その他に党員間の対立が拡大する。 24. 第10回党大会をひらく。自主独立路線と宮本体制の強化。		
8		13. 自民党、田中彰治、代議士を辞任。				
9						
10	11. 荒船運輸相辞任。田中事件、上林事件など政界に黒い霧。 25. 共和製糖事件問題化。					
11	30. 第53回国会(臨時)召集。					
12	3. 第3次佐藤内閣改造。 27. 第54回国会(通常)召集。 衆議院解散。	1. 自民党大会、佐藤総裁再選。	6. 社会党第28回党大会、委員長佐々木、書記長成田。			

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1 29. 総選挙(自民280、社会141、民社30、公明25、共5)			30. 総選挙で5議席獲得。		29. 第31回衆院選で25人当選(衆議院に初進出)
2 17. 第2次佐藤内閣成立。 15. 第55回国会(特別)召集。		22. 佐々木委員長「民社は第2保守党」と発言。 4. 社会党顧問和田博雄死去。 10. 社会党佐々木委員長の「民社党は第2保守党」発言をめぐって、社会、民社両党首公開討論。 20. 社会党緊急中執委で相沢重明参院議員の統制委付託決定。			13. 第4回党全国大会。委員長竹入義勝、書記長矢野輔也。
3 15. 東京都に美濃部革新都知事地方首長選での社共パワースコア評価される。 15. ケネディ・ラウンズト交結。		16. 山口スズエ代議士社会党を離党。 20. 社会党中執委、日中友好協会正統本部支持を決定。 26. 社会主義協会第8回大会、向坂氏が代表を辞意表明、分裂。		19. 民社党西尾委員長辞意表明。 19. 民社党第9回党大会(21)委員長西村栄一、書記長春日一幸、国村委員長佐々木良作。	28. 統一選で1,434人当選。
4 21. 第55回国会閉会。 27. 第56回国会(臨時)召集。 3. 公害対策基本法公布。 8. ASEAN結成される。 18. 第56回国会閉会。		5. 健保国会で社会党佐々木委員長成田書記長辞意表明。 19. 社会党第29回臨時党大会。委員長勝間田清一、副委員長河野密、江田三郎、書記長山本幸一。		23. 民社党沖繩問題で野党共闘を提唱。	3. 第5回臨時党全国大会。 7. 第8回参院選で13人当選。
5 30. 佐藤首相、現職の首相としてはじめて韓国訪問。					
6 7. 佐藤首相、台湾を訪問。 20. 佐藤首相、第1次東南アジア訪問出発。		ベトナム反戦、沖繩返環を三位一体のものとして推進する			
7 8. 佐藤首相、第2次東南アジア太平洋5カ国訪問へ出発。 23. 沖繩問題で四野党書記長会議。	20. 元首相吉田茂死去。	25. 日中国交回復、ベトナム反戦、沖繩返環を三位一体のものとして推進する基本方針決定。 8. 「社会党をよくする会」結成。	1. 「赤旗」毛沢東を反革命と攻撃。		19. 池田創価学会会長、公明支持の労組結成提案。
8 12. 佐藤首相訪米。 15. 日米共同声明。小笠原返還は決まり沖繩返還も首相「阿3年内にメド」と語る。 25. 第2次佐藤改造内閣成立。 4. 第57回国会(臨時)召集。 27. 第58回国会(通常)召集。				2. 沖繩問題の四野党連合より脱退。	
9					
10					
11					
12					

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	日 民 党	社 会 党	共 産 党	民 社 党	公 明 党
18. 米原千力空母エンタープライズ佐世保寄港阻止集会。過激派学生の評価をめぐり社共の対立。		24. 社会党第30回大会「日本における社会主義への道」と『中期路線』決定。	7. 日本の自主防衛を認める」と発表。		16. 社共と米原千力空母反対闘争で共同行動合意。
23. 倉石農相憲法発言で辞任。		25. 社会党沖繩使節団(団長勝間田)。		1. 非核決議案国会提出(社共・公明も同様)。	
2. わが国の総人口一億人突破。					11. 第6回全国党大会。
3. 第58回国会閉会。		11. 山本書記長、宮本共産党書記長との会談で原水禁運動の統一の話し合い申し入れ。			
7. 第8回参院選挙(日共69、社会28)。		22. 飛鳥田横濱市長、岩井総評事務局長、水口護憲連合事務局長の3氏「党改革に対する意見書」党に提出。 31. 勝間田委員長、参院選敗北の責任で辞意表明。			7. 参院選で13人当選。(地方区4人、全国区9人)計24人。
1. 第59回国会(臨時)召集。 20. ワルシャワ条約軍、チェコに侵入。		14. 山本書記長辞任。		21. ソ連、チェコ侵入に対しその抗議声明発表し社会(公明も同様)。	
		11. 社会党第31回大会開会。党改革草案と当面の活動方針を一部修正して可決したが、新執行部選出で紛糾、休会。			
	29. 三木外相総裁選出馬で辞任。	4. 第31回大会再開。委員長成田知己、書記長に江田三郎氏。			
30. 佐藤改造内閣成立。	1. 前尾繁三郎氏総裁選出馬声明。 27. 自民党臨時大会、佐藤総裁を三選。				
10. 第60回国会(臨時)召集。 27. 第61回国会(通常)召集。					



戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
17. 東大、安田講堂の封鎖解除					21. 第7回党全国大会。(～22) 竹入委員長再選。
	26. 政府決定の公害処理法案に反対。			15. 民社党第11回大会、委員長西村栄一、書記長佐々木良作選出。	
23. 閣議、初の「公害白書」決定。自主流通米制度発足。	9. 地方行政委で地方公務員の定年制法案を強行採決。				
30. 総評、反戦委に対する社会党回答を不満とし独自に反安保青年組織を結成する方針を決定。					
3. ジュネーヴ軍縮委に初参加	23. 防衛二法を参院本会議で強行採決。	14. 社会党、東京都議選で大敗。			14. 都議会選挙で25人全員当選。
21. 「アポロ11号」月面着陸。	24. 衆院文教委で大学臨時措置法案強行採決。	3. 社会党、相次ぐ国会の「不当採決」に対し、国会は死滅したとの党声明発表。			
5. 第61回国会閉会。		24. 総評と反戦委を改組し「反安保、反戦青年中央協議会」を設置することで意見一致。			
		18. 社会主義理論委、「社会党はなぜ社会主義をめざすか」などの綱領的見解(中間報告)を発表。		2. 公称を民主社会党から民社党に改称。	
	9. 自民、安保条約の自動延長決定。				
17. 佐藤首相訪米。					
20. 日本青鯊会議終り、沖繩の72年、核抜き本土並み返還決定。					
29. 第62回国会(臨時)召集。					
			28. 総選挙で14議席獲得。	28. 総選挙で31議席。	28. 第32回衆議院選で47議席となり、第三党に躍進。
2. 衆議院解散。		3. 「人間優先・憲法完全実施の70年代計画」を発表。			
27. 第32回衆議院選挙。		27. 第32回総選挙で社会党90議席に転落。			

	一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1	14. 第3次佐藤内閣発足。第63回国会(特別)召集。					◆. 公明党・創価学会の言論・出版妨害事件、公明・共産党の対決強まる。
2	3. 核防条約調印。		4. 社会党、69年秋の党員再登録運動によって党員数が3万56人に減少と発表。 23. 江田書記長、「新江田ビジョン」を提出。			
3	14. 万博閉幕。 31. よど号乗っとり事件。		20. 社会党第33回大会、反戦派の抗議行動で混乱し、機動隊が出動、執行部全員の留任を決める。 7. 鈴木茂三郎氏死去。			
4						
5	13. 第63回国会閉会。		江田書記長、公明党矢野書記長、民社党佐々木書記長の密談つづく。社会党左派は反発。		15. 西村委員長、社会、公明、民社三党による革新再編構想発表。	3. 池田大作創価学会会長、自己批判と政教分離の方針発表。 25. 第8回党全国大会。竹入委員長、政教分離と中道革新連合構想発表。
6	23. 日米安保条約、自動延長。安保延長に抗議する社共などの大統一行動が全国25都府県で行われる。		10. 社会党、7月1日現在の党員数、機関紙発行部数をそれぞれ3万3200人12万5000部と発表。 18. 訪ソ中の社会党使節団(团长・成田委員長)とソ連共産党代表団、共同声明を発表。	7. 共産党第11回大会。70年代新路線決定、幹部会委員長宮本顕治、書記長不破哲三。		
7				24~26. 日本共産党地方議員全国研究会が党史上初めて京都市で開かれる。		
8						
9	◆. チリで人民連合、大統領選挙戦に勝利。 21. 社共両党、総評をはじめ広範な民主勢力が安保条約廃棄、沖縄全面返還、インドシナ三国人民支援、生活擁護の国民的課題をかかげ全国23都府県で共闘を組織。10-21統一行動をたたく。	29. 自民党臨時党大会で佐藤4選。				
10	24. 第64回国会(臨時)召集。 25. 三島由紀夫事件。 29. 国会開設80周年記念式典。	9. 自民党の川島副総裁死去。	30. 社会党第34回大会、江田氏委員長選挙で、成田氏に大敗、革新再編成論は、致命的な打撃をうける。委員長成田知己、書記長石橋政嗣。			
11						
12	9. 日中国交回復促進議員連盟発足(会長藤山愛一郎)。 18. 第64回国会閉会。 26. 第65回国会(通常)召集。					

戦後政党史(福岡政行)

戦後政党史 (福岡政行)

一般政党史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1	21. 定期大会で総裁任期3年などの党則改正。	16. 社会党、総評を中心とする「日中国交回復国民会議」の結成総会開く。	2. 第3回中央委員会総会、地方自治と参院選に関する政策を採択。		7. 竹入委員長、野党再編のための第三者的機関設立の構想発表。
2	25. 繊維業界、対米輸出自主規制に踏み切る。				
3				27. 西村栄一委員長没。	
4	11. 統一地方選挙、東京都、大阪府知事選とも社共共闘勝つ。社共共闘パソワ一再評価される。		8. 宮本委員長、参院選の社共共闘の問題について、政策協定、院内外での共闘、連絡委のような機構を作ることを提唱。		
5	24. 第55回国会(通常)閉会。		29. 参院選で全国区5名全員当選。地方区得票率12%。	27. 参院選で6人(全国4、地方2)当選し、13議席に。	15. 公明党第1次訪中団が北京へ出発。団長竹入委員長。(〜7/6) 28. 第9回参院選で10人当選
6	17. 沖繩返還協定調印。 27. 第9回参院選挙(日民62、社会39、共6、民6、公10)。	1. 社公民3党書記長、参院選で大分、島根、栃木3県で3党協力をを行うことを確認。 6. 成田委員長、護憲のための全野党連合を提案。 23. 社会党の現代革新研究会準備会(江田派)が「革新研」として正式発足。			2. 党訪中団、中日友好協会代表団との共同声明に調印。矢野書記長らの党訪ソ代表団がモスクワへ出発(〜16)。
7	5. 佐藤内閣改造、外相福田起夫、通産相田中角栄。 14. 第66回国会(臨時)開会。 16. 参院議長に河野謙三選出。 24. 第66回国会閉会。			3. 民社党臨時全国大会。春日委員長選出。書記長、佐々木良作。	17. 党沖繩調査団を派遣。
8	15. ニクソン米大統領、金とドルの交換停止発表。 28. 日本変動相場制実施。				21. 第9回党全国大会(〜23)竹入委員長、暴漢に刺される
9					
10	16. 第67回国会(臨時)召集。 25. 中国の国連代表権承認。		21. 沖繩協定反対、インドンナ人民支援日中復交を要求。統一行動。		
11		17. 沖繩返還協定特別委で同協定強行採決。			
12	27. 第67回国会閉会。 29. 第68回国会(通常)召集。				

	一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1		30. 藤山愛一郎の議員党紀選反て処分。	26. 社会党第35回大会、江田派提出の「社公民連合政権議案」大会運営委で本会議上程を否決。			
2	3. 冬期五輪札幌大会。 17. 連合赤軍事件。 27. 上海で米中共同声明。					11. 竹入委員長ら15名の党訪米団が羽田へ出発(～25)。
3	15. 沖縄返還協定批准書交換。		27. 横道議員、沖縄返還協定での外務省の極秘電報を暴露	5. 中国を「社会相対地主義」と非難論文を発表。		2. 公明党新聞創刊10周年を迎える 11. 竹入委員長ら、中華人民共和国を再び訪問(第3次訪中～8/3)。
4						22. 第16回党大会、革新連立政権構想を提唱。社公民が対象。 1. 公明党、第43回メーデーに初参加。
5	15. 沖縄復帰。沖縄県発足。 26. 閣議、初の「選境白書」を承認。 16. 第68回国会閉会。					13. 第10回党全国大会。竹入委員長4選。
6						25. 竹入委員長ら、中華人民共和国を再び訪問(第3次訪中～8/3)。
7	6. 佐藤内閣総辞職、田中内閣発足。第69回国会(臨時)召集。 12. 第69回国会閉会。	5. 臨時党大会。田中角栄新総裁に決定。		9. 創立50周年記念国際理論会議。		
8	29. 三木内閣総辞職に。	22. 椎名使三郎副総裁決定。				
9	25. 田中首相訪中。 29. 日中国交回復。		27. 総評等と米軍戦車搬送輸送阻止の方針決定。			9. 竹入委員長ら東南アジア諸国を歴訪(～24)。
10	27. 第70回臨時国会召集。					
11	13. 衆議院解散。					
12	10. 第33回衆院選挙。 22. 第2次田中内閣発足。第71回国会(特別)召集。		10. 社会党総選挙で失地回復革新再編路線完全に挫折。	10. 共産党総選挙で大躍進。20～共産党九中総、社会党を「中間政党」にふくめ批判、社共の対立激化。	10. 総選挙(日中解散)で19議席に激減	10. 第33回衆院選。29議席。

戦後政党史 (福岡政行)

一般政党史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1 11. 在中日本大使館正式発足。 23. ベトナム和平協定入りで停戦調印。		28. 社会党、国民連合政権樹立の統一綱領草案を発表。			28. 第10回党中央委員会を開催。党勢拡大へ新たななスタートを切る。
2 1. 在日中国大使館発足。		7. 社会党第36回大会、成田委員長共産党を激しく非難。			7. 都政で美濃部与党に。
3 7. 野党4党の書記長、書記局長会議で野党共闘回復。 (フランス総選挙で社共両党は共同政府綱領を掲げてたまたかい両党とも議席倍増の成果)			6. 社共書記長、書記局会議で和解。 15. 宮本委員長、山口果光市で参院選選挙協力を再提案。 28. 宮本委員長、政府綱領の必要性を強調。		2. 公明党新聞朝刊11周年記念論文「政治理念としての中道革新」を発表。 30. 第11回党中央委員会開催
4 24. 社共公・革新団体による小選挙区紛争中央連絡会議を結成	25. 石橋湛山元首相没。				
5 12. 政府小選挙区制案作成認可		15. 共産、公明等と小選挙区制紛争続行行動。			
6 29. 田中首相訪米。	17. 参院三委で防衛2法、筑波大、国鉄法案強行採決。		17. 参院連大阪地方区補選で共産党候補自民、社会、民社の各候補を破って当選。議案提出権獲得。	23. 革新連合国民政権構想提唱。自衛力を肯定。共産党排除を打ち出す。	8. 都議選26議席を獲得し、第2党を堅持。
7 8. 韓国新国民党前議員、金大中氏が韓国中央情報部の手で東京より誘拐され、京城に軟禁される。					4. 第11回党全国大会(～6)。「中道革新連合政権構想」発表。 6. 第12回党中央委員会開催
8 11. チリでアジェンテ人民連合政権崩壊。 26. 田中首相、仏、英、西独、ソ連訪問のため出発。 27. 第71回国会閉会。					
9 17. OAPEC閣僚会議、石油生産削減決定。		20. 社会党、国民連合政府の基礎になる国民統一綱領第2次草案発表。	9. 民主連合政府綱領案発表	5. 佐々木書記長辞任。 6. 塚本三郎書記長代行決定	
10 25. 田中内閣改造。	23. 愛知撲一蔵相急死。		14～21. 第12回党大会、民主連合政府綱領案採択。		
11 1. 第72回国会(通常)召集。 8. 野党4党、政府の48年度予算案に対し共同組替案を提出				2. 民社党、革新連合国民政権構想発表。	8. 第13回党中央委員会開催 23. 参院福岡三区補選で当選これにより衆院議席50となる

一般政治史	日民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1 7. 田中首相、東南アジア5カ国へ出発。		29～30. 社会党第37回大会、国民連合政府綱領案を採択。			
2 15. 前年11月、準備会を発足させていた社、共、公、総評、中立労連等60数団体で「インフレ阻止、物価値上げ反対、生活危機突破国民連絡会」が正式に結成される。				21～22. 民社党第8回大会、革新連合国民政権構想を採択	
3					7. 第14回党中央委員会開催
4	12. 内閣委で靖国神社法案強行採決。		8. 京都嵯峨川知事7選。		
5		7. 共産と参院選協力で合意			
6 3. 第72回国会閉会。		14. 金権選挙の即時停止で自民に公開質問状。		7. 参院選で5人(全国4、地方1)当選し、10議席に。	6. 参院選での社会党との選挙協力が成立、調印。 7. 第10回参院選で14人当選 野党第2党堅持。 31. 第15回党中央委員会開催
7 7. 第10回参院選挙、(自民62、社会28、公14、共13、民5、無7)。 12. 三木副総理、金権政治を批判して辞任。 24. 第73回国会(臨時)召集。 31. 第73回国会閉会。	17. 自民党の三木武夫と福田赳夫が会談、党の体質改善で一致。				10. 竹入委員長を団長とする党第4次訪中団出発(～20)。 25. 竹入委員長を団長とする党訪ソ訪欧団出発。
8 9. ニクソン大統領解任。 30. 三菱重工爆撃事件。		8. 社共公3党委員長、作家小田実氏に呼びかけて韓国問題での共闘に合意。			
9 12. 田中首相、メキシコなど米大陸4カ国訪問に出発。					
10 28. 田中首相、ニューゼーランドなど3カ国訪問に出発。 11. 田中内閣の最後の改造。 18. フォード米大統領来日。 26. 田中首相辞意表明。	18. 自民党総務会、文芸春秋の特集記事で論議。				17. 党結成10周年。党アベール発表。 19. 第12回党全国大会(～21)竹入委員長5選。 22. 第16回党中央委員会開催 20. 第17回党中央委員会開催 28. 創価学会と共産党が協定を締結(創共協定)。
12 9. 第79回臨時国会召集。田中内閣総辞職。三木内閣発足。 25. 第75回国会閉会。 27. 第75回通常国会召集。	1. 椎名裁定で三木総裁就任決定。 4. 両院議員総会で三木総裁正式承認。 27. 三木首相、党近代化試案提示。	20. 社会党第38回大会、成田委員長、石橋書記長を再選、副委員長に赤松勇、江田三郎、飛鳥田一雄の3氏を選ぶ。			

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1	22. 自民党定期大会。三木新総裁を承認。		1. 宮本委員長「赤旗」で、池田創価学会会長の発言を評価。		
2					
3	5. 国民協会、国民政治協会に改組。会長前田義徳氏。				
4	30. ベトナムの30年にわたる戦争終わる。				14. 統一地方選前半の道府県議選で、革新第2党に進出。 28. 統一地方選、地方議員3300人を突破。
5		12. 社会党成田訪中国、北京で中国友好協会と「米ソ両超大国の覇権主義反対」の共同声明。	12. 社会党に日本自動車工業会からの政治献金があったと発表。		27. 第18回党中央委員会開催竹入委員長、三木内閣は「言行不一致」「行政無能」と倒閣宣言。
6	6. 田中金脈問題、国会での解明打ち切り。 10. 経企庁、GNP戦後初のマナス成長と発表。	3. 石橋書記長、共産党は共闘放棄と反撃。			30. 竹入委員長、三木内閣の“7つの大罪”を指摘。
7	15. 政治資金規制法公布。 27. 共産党、創価学会、74年12月調印の相互不干渉、共存の10年協定を公表。	17. 自民首脳、経済4団体首脳と会談。財界、政治献金再開に協力を約束。	6. 6中総で宮本委員長「社会党の危険な変質過程が始まった」と非難。 12. 宮本委員長、池田創価学会会長と会談。		16. 「池田・宮本会議」に対して竹入委員長は、憲法三原理で疑念の消えない共産党とは今後も一線を画し、公明党の路線は変わらないと発表。
8		17. 米へ代表団。			
9	15. 第8回日韓関係会議。(1年9ヶ月ぶり)。 17. 第76回国会(臨時)召集。				14. 第13回党全国大会(~16)「中道国民戦線」構想を採択。 16. 第19回党中央委員会開催
10					
11	15. 先進国首脳会議。 26. 公労協、スト権ストに突入				
12	3. スト中止決定。 25. 第76回国会閉会。 27. 第77回国会(通常)召集。		23. 7中総で「共・創協定の1年間の経過」を承認。		23. 第20回党中央委員会開催

戦後政党史(福岡政行)

戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1	8. 周恩来死去。	1. 首相年頭記者会見で、解散示唆。			
2	14. 米上院多国籍企業小委でロッキード事件明るみに。 23. 衆参両院、米政府と上院へロッキード関係資料提供要請を決議。				
3	24. ロッキード事件の米側資料提供で日米取決め調印。				
4	6. 中国で天安門事件。	3. 首相ロッキード事件説明に政治生命をかけると明す。			28. 第21回党中央委員会開催
5	24. 参院不拉散条約承認。第77国会閉会。	12. 椎名自民党副総裁、福田赳夫、田中角栄、大平正芳各氏と個別に会談、「三木おろし」で一致。			
6		13. 自民党河野洋平以下6名離党。25日新自由クラブ結成。			
7	27. ロッキード事件で田中前首相逮捕。		28. 共産党第13回臨時大会開催、「自由と民主主義の宣言」など採択。		
8		28. 首相、福田副総理、大平蔵相と会談。			23. 第22回党中央委員会開催
9	9. 毛沢東死去。 15. 三木改造内閣発足。 16. 第78回国会(臨時)召集。	1. 三木首相、中曽根幹事長、保利茂、船田中の4氏、政局收拾で合意。			
10				10. 「新しい日本を考える会」共産抜きの新連合構想を表明。	
11					11. 衆院選で公民選挙協力成立。 28. 衆院選で社一公選挙協力成立。
12	5. 第34回総選挙、自民党、辛うじて過半数確保、共産党惨敗、公・民・新自夕躍進。 12. 三木首相退陣表明。 24. 三木内閣総辞職。福田内閣成立。 30. 第80回国会(通常)召集。	23. 福田赳夫氏自民党総裁に就任。	5. 総選挙で、佐々木更三、勝間田清一、江田三郎氏ら落選。	28. 宮本委員長、参院出馬声明。野坂議長引退。	2. 竹入委員長、民社党春日委員長と会談。院内外の協力を協議。 14. 衆議院での院内名称を「公明党・国民会議」と改称。 23. 第23回党中央委員会。



戦後政党史 (福岡政行)

一般政治史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
20. 米大統領にJ.カーター就任		23. 「三月会」正式発足。			19. 党第5次訪中団出発(団長竹入委員長)。
		10. 第40回党大会で成田委員長、石橋書記長を再選。協会・反協会の対立激化。			26. 第14回党全国大会。中道革新連合政権樹立に至る具体的過程報告。竹入委員長6選。
		26. 江田氏、離党届提出、社会市民連合の結成を発表。			28. 第24回党中央委員会開催
9. 与野党幹事書記(局)長減税で合意。					
2. 海洋2法成立(領海12海里)		22. 江田氏急死。大柴滋夫衆議院議員が離党を表明。			10. 第11回参院選に臨む「七大政策」を発表。
					14. 第25回党中央委員会を開催。
9. 第80回国会閉会。		13. 公明との選挙協力に合意		11. 公明と参院選協力で合意	10. 社市連と都議選協力協定調印。
		13. 成田委員長辞任声明。 30. 反協会派が党改革推進グループ準備会結成、「協会とは党をともしない」と強硬声明。			
10. 第11回参院選挙(自民63、社会27、公14、共5、民6、新目73)。 27. 第81回国会(臨時)召集。					10. 次期衆院選での選挙協力が民社党との間で成立。 20. 第26回党中央委員会開催
3. 第21回国会閉会。		26. 第41回党大会閉会。2日目に田英夫、橋崎弥之助、泰豊の3氏が離党を表明、大会混乱、3日目に成田、石橋暫定執行部を選んで休会。 29. 社市連が全国組織結成大会、田氏らとの新党結成方針を打ち出す。			
		9. 1回江田派、勝間田、佐々木派および三月会など解散。		10. 公・社市連と自治体首長選挙で共産排除合意。	
25. 第82回国会閉会。				28. 第22回民社党臨時大会、佐々木良作新委員長選出。	11. 党第2次訪欧団出発(21. 団長矢野書記長)。
7. 第83回国会(臨時)召集。 10. 第83回国会閉会。 19. 第84回国会(通常)召集。		13. 総開大会閉会、飛鳥田委員長、多賀谷貞穂書記長らを選出。			

戦後政党史（福岡政行）

	一般政党史	自民党	社会党	民社党	社民連	公明党
1			野党5党の予算共同修正案提示。 2/19 「100万党建設」を盛り込んだ78年度運動方針案発表。 14. 社会党第12回大会		21. 社会民主連合結成準備大会開催。 26. 社民連正式結成大会開催 代表田英夫、書記長檜崎弥之助。	11. 第15回党全国大会（～13）自衛隊を認めるとの竹入発言。 13. 第27回党中央委員会開催
2						
3						
4			3/1 初の全党員の公選で飛鳥田委員長村立候補なく81%の支持。 12. 同党定期全国大会開催。 佐々木委員長、責任野党総結集を強調。			
5	12. 参院で成田空港の安全確保の法案可決成立。					23. 初めての中道四党首会談
6	16. 第84回国会閉会。					
7	28. 栗橋統●議長更迭。					
8	12. 日中平和友好条約調印。		3. 有事立法で福田内閣を批判。			16. 憲法内で有事立法の必要を認める見解。
9	18. 第85回国会(臨時)召集。				8. 公民新自クと中道4党勢力結集で一一致。	
10	21. 第85回国会閉会。	21. 自民党総裁公選に大平、河本、中曽根正式に出馬宣言。大平幹事長・大福大制終結宣言。				19. 自衛隊認知は「課題」とし、竹入体制継続等の活動方針発表。
11	23. 政府元号法案提示。	27. 自民党総裁選挙備選で、大平、福田に110点の差をつけて大勝、同党第9代総裁に事実上決定。	10. 社会党「多様化時代の非武装・平和中立と日本の平和保証政策」(案)をまとめ、北方領土で方針転換。			
12	12. 第86回国会閉会。 22. 第87回国会閉会。	1. 自民党第35回党大会、大平正芳、無投票で第9代総裁に選出。				

戦後政党史 (福岡政行)

	一般政党史	自民党	社会党	共産党	民社党	公明党
1			18. 第43回定期大会。			19. 第16回党大会で、竹入委員長、矢野書記長が7選。
2						
3						
4						
5						
6			21. 飛鳥田ドクトリン。			
7						
8						
9						11. 衆院選で公一民選挙協力。ほかに中道四党協力も。
10					7. 総選挙 (曲がり角解散) で35議席に。	7. 衆院選でこれまで最高の58人当選。
11			8. 中執で「社公中軸」を正式決定。 25. 委員長、中央委で「全野党」を強調。「社公中軸」にブレーキ。			13. 民社党との「中道政権構想協議会」設置。 14. 社会党との「政権協議委員会」発足。
12					6. 中道連合政権構想に合意。	